

屋外利用の 高速電力線搬送通信について

(社)日本アマチュア無線連盟

事務局へのお願い

- 高速電力線搬送通信設備作業班の設置の経緯、審議事項、課題について説明をして頂きたい。(資料1 - 1)
- 震災により作業スケジュールに変更が生じていると思われる。新しい検討スケジュールを提示して頂きたい。

なし崩しの利用拡大に反対する

- 我が国の高速電力線搬送通信設備の利用に関しては、平成14年から平成18年まで多くの研究会や審議会、関連実験を経て屋内利用に限定して制度化された。

スマートグリッド実現の手段として高速電力線搬送通信を屋外利用したいとの提案であるが、必然性が認められず、アマチュア無線を始め短波帯を使用する多くの無線局に著しい妨害を与えるおそれがあるので反対する。

屋外利用の必然性について

- 電気エネルギーの効率的な利用にスマートグリッドは必要不可欠な技術と認識している。しかし、高速電力線搬送通信を使用する必然性に疑問を感じる。他の無線システムに干渉を与えない、中継機能を有する無線システム、光ファイバー等又は、現在の規則で許されている電力線搬送通信設備等、短波帯の電波に妨害を与えないものの使用を強く推奨する。
- 防犯カメラ等での屋外利用に関する説明があったが、PoE (Power over Ethernet) が安価に提供されている現在では不要と考える。

機器の技術条件の提示

- 屋外利用の高速電力線搬送通信システムの技術諸元を開示して頂きたい。
(変調方式、使用周波数、電力(電力密度)等)

特に既存の屋内用PLC機器との違いを明示して頂きたい。

イミュニティーについて

- 屋内利用でも外来ノイズにより伝送の停止やスループットの低下が発生している。屋外利用ではさらに外乱要因が増えるので、屋内利用の機器よりも妨害排除能力の高い機器が必要となる。